

「初めての海外研修を終えて」 蕪崎高校 2年 松永 瑠依

このプログラムを知り、申し込んだときの自分をよく覚えている。当時自分は将来の夢を明確に持って留学をしたいと思ったわけではなく、将来何をするかはわからないがただ英語を使えるようになりたい、と思っていた。申し込みをした後、まわりの皆が確実な夢を持って参加をしているように見え、私は気後れした。社会課題について深く考える、そういう経験がなかったことで余計にそんな気持ちになったように思う。それでも行きたい気持ちは強く、先生や親に手助けをしてもらいながら申し込み、七日間のプログラムに参加、終わることが出来た。

留学後の自分にはいくつか変化があった。申し込み当時にひたすら情報収集をしていた記憶もあってか、アイオワのみならずあらゆる地の社会問題に自然に目が行くようになった。また、日本にいたるとなんとなくでも出来たコミュニケーションというものに対し留学中には真摯に向き合った。英語力が不十分な今、どうやって主張をするのか、必死になって考えた。その結果、コミュニケーションをどんな風にしていくべきなのか、世界を見るとしたら何が重要なのか、よく考えるようになったし意識が変わった。またホストファミリーとも連絡交換を積極的にしたり、友達にもより明確な意思を伝えるようになった。それらが大きな変化だと思う。

このプログラムのために参加した事前学習会は、新たな試みで溢れていた。アイオワと山梨について考える、それだけでも挑戦だったが、まったく交流したことのない仲間と初めての方法でひとつのものを作り出す、そしてそれをプレゼンするための英語を練習する、こんなにもやることが山積みとは、と最初は舌を巻いた。けれどこれが、留学への期待感と、自分たちが成そうとしていることへの責任感を感じさせてくれるものとなった。ただ、もう少し余裕は欲しかったように思う。

私の中で、留学中の最も大きい体験はホームステイだ。話が出来るか、どう過ごしたらいいのかと不安は尽きなかった。けれどホストファミリーはとても優しく、会話も弾んだ。新しい故郷が生まれるときの気持ちはとても不思議で、かつ暖かいものだった。日本での自分の暮らしやスプリングブルックでの自然とのふれあい、ホストファミリーと関わる瞬間まで自分が吸収してきたものがホストファミリーと自分を繋げた。ホストマザーにおそろいのTシャツを買ってもらったりと、ここでは幸せな記憶しかない。三日間と短い日数だったのでもう少し良かった。

留学のため必死に準備をした。留学中にたくさんお話を聞かせてもらい、色々なところへ行き色々なものを見た。この留学のため、そしてこの留学中したことが今の私の行動を引き出した、ふとそんな風を感じる時、感動しそうにさえなる。しかしこれはきっかけにすぎない。これから自分を育てて新たなことに果敢に挑戦し成果を残す、そんな人間になろうと強く思う。

1

社会課題に対する関心の変化

山梨とアイオワは農業を中心とした経済活動を行っているという点で似ているがその規模はまったく異なっていた。山もなくただただ広大な農地が広がっているアイオワのスケールの大きさに驚きを隠せなかった。しかし後継者不足、TPP への懸念、環境問題等抱えている問題は山梨もアイオワも同じだった。それらの問題にたいしてどう向き合うかということが大事なのだと感じた。広大な農地を持ち生産量をトップクラスの実績をもつアメリカと質にこだわりブランドとして誇りをもつ日本。それぞれのやり方を見てくることができてよかったと思う。

コミュニケーション能力の変化

自分の英語力を実感したのはホストファミリーと過ごした3日間である。最初はナーバスになっていて自分から話しかけることはおろか話しかけられても困ってしまっていたが間違えてもいいと思うようにしていたら楽しくなっていた。頑張っけて聞きとろうとしたり、なるべく言いたいことを伝えようと心掛けている自分がいた。それとともにもっと話せるように英語を勉強しなければという思いにもなった。ネイティブな環境で過ごした間は発音もきれいになったように感じたし英語を話すことが楽しいと感じた。それが自分にとって大きな成果であったと思う。

2

事前学習

TPP に参加した今、山梨の農業はどのようになっていくべきかということについて様々な議論を重ねた。TPP における不安や疑問をどう解決していくか、解決のためにはまず山梨の農業に触れ、知る機会を作るべきだという話になり、次世代を担う私たちの世代が興味をもつような商品・イベントの案などを作り出した。それらの案はあくまで例でしかない。要はいかに興味をもってもらい一緒になって農業の未来を築いていくかということであると私は考えた。それは山梨もアイオワも同じなのだとアイオワに行き行って感じた。

留学中のプログラム

アイオワの自然の豊かさ土地の広さにただただ驚かされた。朝起きてカーテンを開けると目の前にシカが何頭もいて、リスがいて、いつもはしない早起きをして朝の散歩を友達と楽しんだ。朝日がトウモロコシ畑に降り注いでいるその光景は本当にきれいだった。

ハイキングや Bird Banding、アーチェリー、キャンプファイヤー、夜の星はずっと見ていたくなるほどきれいだった。普段なかなか体験することのできないことばかりでとても楽しかった。

ホームステイ

私たちが頑張っけて英語で伝えようとしていることを一生懸命理解しようとしてくれて間違っていたらそっと教えてくれたホストファミリー。おそろいのTシャツを買ってくれてみんなでそのTシャツをきて家族なんだと笑いあった。

日本の文化について話し合ったり、おかしなことをいってたくさん笑った。たった3日の出来事かもしれない。しかしその3日間はなににも代えがたい最高の時間だった。一生懸命勉強して英語が今よりももっと話せるようになったらまた会いに行きたいと強く思う。出会えたこと、様々なものを見せてくれたこといろんなことに感謝でいっぱいである。また行きたいそう思えたアメリカ留学であった。

報告書

甲府第一高等学校 和田清慈

私はこの留学プログラムを通して、様々なことを考えそして体験してきた。

まずは文化の違いから。アメリカと日本では土地の大きさが違うために土地の使い方も違う。例えば、日本の畑や田んぼは綺麗な四角の形ばかりである。だがアメリカの特にアイオワでの麦畑ではおおざっぱに区切られていた。他にも、住宅街の違いについて、日本の住宅街は家どうしがきつきつに並べられているのに対し、アメリカでは家の敷地に車を入れるガレージがあるのは当たり前のように土地を広く使っていた。だが、ここで考えてみたのが、日本では車をガレージに入れてシャッターを閉める家は少ない。だがアメリカはそれがほとんどなのだ。これは日本の治安がとてもいいことを示していると考えた。他にもとても細かい文化の違いを説明すると、日本のトイレトペーパーは上からとるのに対しアメリカは下から。また、トイレの隙間がアメリカではおおきいこと。そしてなにより一番違うなと思ったのが周りの人の体のでかさです。僕のホームステイ先での食事の習慣は、朝はあまり食べず、昼と夜にたくさん食べていました。また麦からできた炭水化物を豊富に食べています。そして移動はほぼ車なので、大きくなると考えました。

しかし私はバスでの移動の途中、不思議なものを見ました。橋の下でいくつかのテントがボロボロで並んでいました。ホームレスです。自分はテレビの中でしか見たことがないような光景に驚きました。日本にももちろんいますがあまり見かけません。しかしアメリカではこのプログラム中の移動だけでもそのような場所を3つ見ました。それだけ格差が広がっているということだと思いました。

私はこのプログラムに参加する前は、英語はたくさん勉強したから、しっかり通じるし、またアメリカへのあこがれもあってそこは夢のような国なのだろうと考えていました。しかし現実は厳しく、英語は綺麗に通じないし、国も完ぺきではなく、格差が広がっていました。

私はこのプログラムを通して成長したことがあります。一つは英語のコミュニケーション力です。こちらはたくさん外国人の人と関わっていくなかで得ました。もう一つは、世界は広く、たくさん違いを受け入れることができました。自分達の問題ばかり目を向けるのではなく、世界の問題にも向き合えて行けるような、そんなグローバルな人材に、なっていけるよう頑張っていきたいと思いません。

この企画を通して

甲府西高等学校 丸山 夏子

(1)

社会課題に対する関心に変化はあった。理由は、特に私は農業の問題について関心が強かったので、アイオワの広い農場を実際に見て、山梨のせまい土地で、どう、大国に劣らない農業の体制を作っていくかに、もっと関心を持った。

コミュニケーションの力に変化はあった。理由は、コミュニケーションの手段が言葉だけではない、ということ再認識したからだ。日本語で話す時も、アクションを交えて話す方がよりわかりやすいと思った。また、言葉や文化が違おうとしても、英語ができればコミュニケーションがとれることが便利だと思ったし、これからの英語学習の意欲の向上につながった。

問題を解決する力に変化はあった。理由は、スマートフォンが使えなかった状況で、たくさん問題にぶつかったからだ。日本では何か問題があると、すぐスマートフォンを頼っていたが、それができない状況だったので、人に尋ねたり自分で試行錯誤したりした。社会に出てからは、スマートフォンで解決できない問題ばかりだと思うので、これからもそういう解決の仕方を試みたい。

(2)

事前学習会を通じて感じたことは、自分と同じように山梨や世界の問題について関心をもっている学生がたくさんいるということだ。みんな真剣に問題について話し合っていて、意見を言いやすい雰囲気であった。たくさん人の考えに触れ、そこから自分の考えにつなげられる良い機会であったし、たくさんの友達をつくることができた。

留学中のプログラムについては、どれも充実したものだだった。Spring brook ではアイオワの自然や動物とふれあい、その尊さに気づけた。現地の人々との交流では、様々な価値観や考え方を知ることや、友達を作ることができてとても楽しかった。また、実用的な英語にふれ、自己の英語能力を向上することができた。しかし、1週間という短い期間であったので、とても忙しかった。

ホームステイを通して感じたことは、アメリカと日本の生活様式の違いだ。食事やお風呂、休日の過ごし方、家の様子など、衣食住のすべてが違うと思った。3日間という短い期間のホームステイだったので、あまり体に適応することができなかったが、たくさん違いを感じることもできた。将来はグローバルな人材になりたいので、アメリカの文化をもっと理解したい。また、ホストファミリーと行った教会では、はじめて宗教を身近に感じて鳥肌が立った。宗教を理解することは、日本では難しいことなので、とても良い経験をすることができた。

「第二の故郷アイオワ」

甲府西高 2年 赤岡 紗代

今回、グローバル人材育成プログラムでのアメリカ短期留学に参加したのは「視野を広げたいから」という漠然とした理由からであった。共通の社会課題についての学習を通して視野が広がると思った理由も曖昧だった。しかし、準備段階から帰国するまで、数々の経験のなかでその実感があった。

プレゼンをするにあたって、アイオワと山梨の共通する社会課題として農業人口の減少を挙げた。調べているうちに山梨の現状がわかってきた。その時に気付いたのは、いかに私が山梨の農業に関心を持っていなかったかだ。アイオワについて知る前に、山梨を知る必要があった。共通課題の解決に向けて、私たちが真剣に考えなければいけないのは、私たちが未来の農業を担う世代だからだ。後継者不足の直接の原因はそんな世代の農業に対する先入観や無関心にあるのだから、その世代にいる私たちが解決策を考えていくことが一番の近道だ。まず地元に興味を持てたことが私にとって最初の大きな収穫だった。

アイオワではたくさんの自然に触れた。気持ちの良い日差しの下でのハイキング、星が輝く夜のキャンプファイヤーなどで、アイオワの豊かな自然を五感、そして心で最大限に感じた。中でもあの星空は決して忘れないだろう。いつも山梨で見る冬のオリオン座が、遠く離れたアイオワでも、もっと大きく輝いて見えた。飛行機で11時間もかけてきた場所で同じものを空に見たとき、とても不思議な気持ちになった。

そんな美しいアイオワに住む人たちは温かい心を持っていた。スプリングブルックの方々、現地の学生、お年寄りの皆さん、議事堂の職員やお店の店員の方々も、皆私たちを歓迎してくださった。会話をして笑ったり、一緒にご飯を食べたり、うちわを作ったりと、本当にすべての交流が楽しかった。英語に不安もあったが、自分の英語で伝わったときは嬉しかった。気持ちを伝えようとする姿勢の大切さも痛感し、その思いもアイオワの人たちが受け止めてくれた。

そして、ホストファミリーとの再会は私の本望だったため、またあの家族に加わったことは本当に幸せだった。車の中でのマザーの歌声や家での何気ない会話が好きで、さらに昨年よりもたくさん会話ができたことも嬉しかった。別れ際にはいつでもここはあなたの家だし、いつでもあなたは家族の一員だと言ってくれた。ホストファミリーとの出会いは、私の人生の中で大きな価値を持つものになるだろう。心から感謝している。

アイオワで気付けた自分もいた。あまり積極的になれず嫌気がさしたり、ちょっとしたことで考えすぎてネガティブになってしまったりした。しかし、変わるチャンスくれたのがアイオワであった。物事は捉え方次第で変えることができ、チャンスをつかむのは自分自身なのだという事を感じた。前向きに切り替えることで、この一週間を全力で楽しめた。

広大で自然豊かなアイオワで現地の人の温かさに触れたこの一週間。アイオワでの滞在によって見ることができた私の地元山梨、自然の尊さ、人の温かさ、そして自分。これが視野を広げるということだったのだと思う。このプログラムに参加したことで果たせた出会いも大切にしていきたい。

アメリカ留学を終えて

山梨県立甲府西高等学校 二年 広瀬奈央

(1) 留学前と留学後の自分自身のことについて

私はこの留学を志望して、山梨県の抱えている社会課題を考えたときに、山梨のことについて全然知らないことに気づかされました。グループ学習を通して解決策を考えるうちに、自分の身近な問題として捉えられるようになりました。スプリングブルックでは実際に考えたことを試してみる機会がたくさんありました。この経験を通して社会課題は自分たちが解決するものという意識に変わりました。

留学前は英語でコミュニケーションをとるのに少し抵抗がありました。しかし、現地の学生やホストファミリー、お年寄りとの交流などで多くのアメリカ人と話をするうちに、間違いを気にしたり、恥ずかしいと感じたりすることはなくなり、楽しく会話することができました。日本人の友達とも英語で自然と話せるようになったのは不思議でした。英語で話せるだけで、世界が一気に広がる感覚を味わいました。

スプリングブルックでは、Stream table を使って、土壌流出をどのように食い止めるか実験しました。頭で考えていたことをそのままやってみることは難しく、全く予想していなかった結果になったりして、問題を解決することは一筋縄ではいかないのだなと実感しました。しかしこの試行錯誤も実際の川では何度もすることはできないので、実験装置で行う重要性に気づきました。問題を解決することはできなかったけど、解決する方法は学ぶことができました。

(2) 体験を通して感じたことについて

事前学習会は留学に本当に役に立ったと思います。日本にいる間に知識を深めて、現地で調べなければならないことを明確にできたので、有意義な留学になりました。また、最初に自分で考え、次にいろいろな学校から集まった人たちと意見を交換したので、自分の意見をはっきり言うことができたし逆によく練られた考えを聞くこともできました。

アイオワでは様々な年齢の人たちとの交流ができました。それぞれの年齢からみたアイオワの話の聞いて、非常に面白かったです。アメリカでは、日本と違うところが多く、戸惑うところもありましたが、文化交流を通して相手の文化を尊重するとはどういうことかがわかった気がします。アメリカの人たちの優しさにはいつも助けられました。

ホストファミリーとは留学前からメールでやり取りをしていたので、会うのがとても楽しみでした。アメリカの日常生活も私にとっては何もかもが新鮮でした。ホストファミリーはとても優しく、コンサートやショッピングモールなどアメリカの生活を満喫しました。しかし、yes か no かを聞かれたときに、はっきり言うことに慣れていなかったのが、困らせてしまった時もありました。また、細かいニュアンスを伝えたりすることができず、もどかしさも感じました。そのようなことも含めてよい経験になったと感じています。短いホームステイでしたが、留学がおわってからも連絡を取り合う関係になれたことがうれしかったです。

留学を通して

甲府昭和高校 高橋日菜

今回この留学に参加して様々なことを経験させていただきました。

以前シカゴに訪れたことがあり、それがきっかけで英語が好きになりました。その時に、もっと英語を学んでから再びアメリカに訪れたいと考えていました。今回その機会を得ることができ、わたしにとって二度目の渡米になりました。日本とアイオワ州との時差は15時間。半日以上の時差があり、とても不思議な感覚に包まれました。1日目は日本を10日に出発し、飛行機で10時間を超えるフライトを経て、現地に着いたのは10日の夜でした。10時間を超えるフライトは予想以上に疲れましたが、これからの事を思うとワクワクせずにはいられませんでした。

2日目は鳥について学びました。わたしは鳥が苦手なので近くで観察することは出来ませんでした。講義の内容はわたしの知らないことばかりで大変興味を抱きました。その後のハイキングでは森を探索し、動物の足跡を見つけたり落ち葉を踏みしめたりする事でアメリカの自然の広大さを感じました。お昼にはアメリカならではのジャンクフードを満喫しました。中でもハンバーグは自分たちの顔ほどありその迫力に驚かされました。午後には狩りをしました。アーチェリーややり投げを体験しました。的に当てるのは難しく、狩りをする人はすごいと思いました。夢歩先輩はやり投げの経験者らしく、男子よりも遠くに飛ばしていたので狩りに向いてるなと思いました。その後は、カラフルな羽を使って釣りの仕掛けを作りました。わたしは、釣りが好きなのでこの仕掛けを使っていつか魚を釣るぞと密かに決意しました。夜はキャンプファイヤーとナイトハイクをしました。キャンプファイヤーは初めての経験でしたが、一つの火をみんなで囲むことによって、連帯感を感じる事が出来ました。寒い中、自分で作ったスモアは温かくて美味しかったです。その時に見上げた空に光る星はとてもきれいでキラキラと輝いていました。山梨で見る星よりも光って見えました。この日はみんなで集まって、ゲームをしたり語ったりして距離が縮まった気がしました。この二日間を通して、小学校の頃の林間学校を思い出しました。

3日目はマディソン郡の6つある橋のうち「Cutler-donahoe Bridge」を見学しました。中にみんなの名前を書いたことが思い出になりました。昼食は現地の中高生と話しながら食べました。そのあとは、ゲームをしたり、うちわに漢字を書いたり、鶴を折ったりしてアメリカと日本の文化を共有することができ、楽しかったです。夕方には待ちに待ったホストファミリーと対面しました。わたしのホストファミリーは、お父さん、お母さん、兄のAdam、弟のJeymy、姉のErinと妹でした。妹とは会えませんでした。とても優しい雰囲気でお話しを聞き入れてくれて、ほっとしました。夜はピザを食べながら話したり、お土産を渡したりしました。英語で会話をすることができ、自信になりました。HAWKS家は日本びいきらしく、日本の物をいくつも持っていました。私が持って行ったものも大変喜んでもらえました。

4日目の朝はお父さんがパンケーキとエッグマフィンを作ってくれました。アメリカの家庭ならではの味を楽しみました。昼ごろにアイオワ州最大のショッピングセンターに連れって行ってくださいました。そこで売っているものはどれもアメリカらしく、わたしの心を捕らえました。スタバの飲み物は日本に比べてものすごく甘くて驚きました。イースターと言うこともあり、うさぎやたまごを使ったものが数多く売っていました。ホストファミリーと一緒にうさ耳を付けて撮った写真はこの旅で一番のお気に入りになりました。夜はバーベキューコンロを使ってお父さんがハンバーガーを作ってくれました。直火で焼くハンバーガーは初めてでしたが、とても美味しくお父さんの愛情を感じました。夜は大きなテレビで映画を見ました。

5日目は老人ホームを訪問しました。お年寄りから聞いた話から様々なことを学ぶことが出来ました。お年寄りの英語はゆっくりで、若い人よりも聞きやすく分かりやすかったです。午後は日本の国会議事堂のようなところに行きました。とても広く立派な建物に目を奪われました。夜はパーティがありました。それぞれ持ち寄った食べ物はどれも美味しかったです。発表会では事前学習の成果が身になり良かったです。その日はホストファミリーとの最後の夜でした。ホストファミリーがお土産屋さんとアイスクリームショップに連れて行ってくださいました。お土産屋さんではアイオワのものをプレゼントしてくれて本当に嬉しかったです。アイスは逆さにしても落ちてこないトルコアイスのようなものでびっくりしました。夜中までAdam達とVINEの動画を見て盛り上がり、とてもいい時間を過ごしました。その日はオールで過ごし、あみ先輩とお揃いのキーホルダーと手紙をサプライズで用意しました。

6日目の朝はホストファミリーとのお別れでした。たった3日だったけど本当の家族のように接してくれて離れるのが辛かったです。号泣して離れられないわたしの手にハートを書いて抱きしめてくださいました。絶対に会いに行きます。ロサンゼルスは駆け足で過ごしました。一番の思い出はハリウッドに行けたことです。有名人の手形に手を合わせたり、ハードロックカフェで夕食を食べたりどれも最高の思い出になりました。

この留学をとおして英語を学びたい気持ちが一層強くなりました。将来は必ずアメリカの地で活躍できる人になりたいです。今回留学に引率して下さった数野先生、渡辺先生、日本旅行の遠藤さん、ISSのキャシーさん、参加した高校生のみなさんをはじめとする関わってくださったすべての方々に感謝します。本当にありがとうございました。

留学プログラムを通して感じたこと

甲府昭和高等学校 1年 白石 まりあ

1

社会課題に対する関心の変化

私は、留学前と留学後とで比べると社会課題に対する関心は深まったと思います。私は移民問題・人口問題についてを社会課題にしました。そして、5班のみんなの社会課題を基に、農業誘致で課題の解決方法を考えました。留学中もさらに考え、ホストファミリーの前でプレゼンを行ったことで、さらに社会課題について深く考えることができるようになりました。

コミュニケーションの力の変化

私は、初めて会う人と話したりすることがあまり得意ではありません。また、英語も全然話せないなので、最初はとても不安で慣れるまで苦労しました。でも、先輩や友達と助け合いながら、できるだけたくさんの人と英語でコミュニケーションを取ることを意識しながら1週間生活しました。そのため、事前学習会などでは一度も話したことがなかった人や、現地のアメリカ人とたくさん話すことができました。だから、私は留学前より留学後の方がコミュニケーションの力は上がったと思います。

問題を解決する力の変化

社会課題について、調べたり、現地の人々に聞いたりして、解決方法を探しました。私は、その事についてよく知っている人に聞いたりして、情報を得ることは、インターネットで調べるよりも、より詳しく確かな事が分かるということがわかりました。

2

事前学習会

留学前に3回の事前学習会を行い、一緒に行くみんなと顔を合わせたり、同じ事をやることは、とても良いことだと思いました。留学前で交流を深めることで、留学中も楽しく充実した1週間を送ることができた気がしました。また、ホストファミリーへのプレゼンに向けて、事前に準備をしておくことで、留学中にアメリカでやることは、仕上げと練習だけなので、気持ち的に余裕をもって取り組むことができました。留学前に、プレゼンについてなど理解を深めることができ良かったです。

留学中のプログラム

アイオワ州でのプログラムは、ハイキングやキャンプファイヤーで自然に触れた

り、キャピトル・スカルプチャーパークなどに行き、アイオワ州について学べて良かったです。

ホームステイ

私のホストファミリーは、子供2人大人2人の4人家族でした。私達のホームステイを優しく受け入れてくれて、本当に良かったです。休日は、みんなでボーリングへ行ったり、バスケットなどをしてとても楽しい時間を過ごすことができました。ホストファミリーとたくさん話したり、色々な所に行けて、とても貴重な体験をすることができました。とても楽しく、充実したホームステイでした。



かけがえのない時間と様々な出会い

市川高校 2年 榊原由布子

私の社会課題は環境問題で、その課題に関する関心に変化がありました。留学中のプログラムでは、特にアイオワ州で自然環境に触れる機会が多かったです。

またホームステイなどを通して人々の暮らす環境も見ることができました。日本以外の国の環境を始めて見て、たくさんの驚きを感じたからです。山梨県より広い土地のある山梨県と自然豊かな点が似ていました。留学を終えて、私はもっとこの環境というものについて考えを深めたいと思いました。

この留学プログラムで自分のコミュニケーション力が上がったと感じています。留学初日はみんなの話している言葉が聞き取れず、自分から話すということもあまりできませんでした。しかし、何日か過ごすうちに自分が持っている英語の知識をフル活用してなんとか話すことができるようになりました。また相手に分かりやすく伝えようとする気持ちも大きくなりました。そのような点で私のコミュニケーション力は上がったと思います。

問題を解決する力にも大きな変化がありました。留学中は言語の壁の問題がありました。行われたプログラムの中でもたくさん課題が課せられました。留学前は問題に対して消極的になってしまう傾向があった私は留学のプログラムを通して問題に対して積極的に取り組むようになりました。気になった点は周りの人に聞き、自分なりの答えを出すことができるようになりました。

アイオワ州での自然学習会はとても楽しかったです。私は自然環境に興味があり、学んだことすべてをしっかりと自分のものにすることができました。2日目の朝に鳥の種類を調べて鳥の足にバンドを付けて森に帰したことが一番印象に残っています。アイオワ州の鳥をはじめ、様々な種類の鳥の生態を学ぶことは面白かったです、夜に見た大きな星座の見える吸い込まれそうな星空は忘れません。

留学中のプログラムはすべてのことに驚きや新しい発見がありました。先ほどの書いたこと以外にアイオワ州での体験ではキャピトルを見学したことやご高齢の方々と昼食をとりながらお話をしたことが楽しかったです。私はご高齢の方と筆談をしました。とても優しい方でたくさんのアイオワ州のいいところを教えてくださいました。

ホームステイでは人々の優しさに触れることができました。初めはとても不安でした。しかし、家族みんながとても優しくしてくれて、休みの日も楽しく過ごさせてくれました。楽しい家族に出会えてとても幸せでした。

この留学プログラムを通してグローバルな人材に少しでも近づけたと思います。また、自分の新たな夢を見つけることができました。

アイオワで過ごしたかけがえのない7日間

日川高校 2年 古屋紘花

(1)

私は、祖母が農業に従事していることもあり、農業問題に対する関心は元からあった。自分の家の畑が少なくなっている現状を見て、農業人口の減少があることを知り、アイオワでもあるのかと思ったことがきっかけだった。留学中、直接農家の人とかかわることは無かったため、農業人口減少の問題を知ることができなかった。しかし、グループの中で討論をしていくうちに、様々な解決策が出ることにより、自分がいまなにをできるのかということについて深く考えるようになった。

ホームステイの最初はホストファミリーの言っていることが分からなかったり、何度も聞き返したりしたが、最終日になるとだいたいなにを言っているのか分かり、返答をすることができるようになってきた。

問題を解決する力と言われると、高校生の私たちにこの問題を直接解決する策はあまりないが、チーム農業の提案などsnsを使ったり地域の農家の人と触れ合ったりすることで問題解決に少しでも助力できたらいいなと思った。

(2)

事前学習会では、チームを通して一緒に研修に行く人達と仲良くなれたりアメリカのことを本場の英語で授業を受けることができたり、とても有意義な事前学習会となった。特にチームで1つの問題の解決策を考えるのはとても楽しく、意見交換をし、よりよい提案を作り出せたと思う。

スプリングブックスではアイオワの自然環境に関する面白い展示物やキャシーの講義を受けられて、普段絶対に触れられない自然やキャンプファイヤーも楽しめた。また、老人ホームでは、様々な方々と交流することによって、アメリカの観光名所やそれぞれの家庭のことを教えていただいたり、また自分の家庭や日本のことを自分の英語で紹介することができ、とても有意義な時間を過ごせた。

自分にとっての初めてのホームステイだったが家族が優しく接してくれ、3日間だけだったが本当の家族になれたような気がした。最初は、全然話せなかったし、ほかの日本から来た留学生の人に頼りっぱなしだった。しかし、だんだん話せるようになり、コミュニケーションをとることが楽しくなってきた。レストランやショッピングセンターなど、アメリカを味わえるような場所にも連れて行ってもらえた。私は猫アレルギーではないと思っていたが、アレルギーっぽい反応がでてしまったとき、ティッシュをくれたり心配してくれたり、心に染み入るような気づかいもしていただいた。なにもかもが新鮮で素晴らしい3日間だった。

報告書

吉田高校 1年 天野 真慧

(1)

今回のプログラム全体を通して私の社会課題に対する関心は格段に高まったと言える。特に事前学習の自分で山梨とアイオワの共通課題を見つけそれについての小論文を書くという活動が大きく影響している。小論文に取り組むまでは、まったくと言ってよい程社会課題には興味がなかった。しかし、調べていくにつれてさらに知りたいと思うようになり、他のメンバーの取り上げた課題を聞いて新たな発見を得ることもできた。今回は日本とアメリカという先進国の地方の地域での共通課題だったが、今後は先進国の都市部同士・先進国と発展途上国・発展途上国同士などの様々な地域間の共通点、相違点も調べていきたい。

県内の各高校から募集した事もあって、日本にいる期間もコミュニケーション能力を高める事が出来たが、アイオワ滞在中のホームステイが何よりも私のコミュニケーション能力を高めた。その理由としてあげられるのが、英語でコミュニケーションを取らざるを得ない環境である事、もう一つは普段より多く英語を話したいという意志であったと私は感じている。

事前学習の際、班員がそれぞれ調べた共通課題を出し合い、解決策を見つけていく中で問題解決の一つの手段を得る事が出来た。それは例えばある課題からなぜその課題が起こるのか(why?)を追究していき、その課題をより具体化し、解決策を洗い出す「ロジックツリー」という手段だ。私は先生方からこの方法を教えていただいた時感銘を受けた。この方法は高校生活でも活用でき、これから先の人生でも必要となるスキルだろうと感じた。問題解決力は事前学習を通して特に身につける事が出来た。

(2)

(1)にも記した通り事前学習では、社会課題に対して関心を持つ事が出来た事と共に問題解決の手段を身につけ、力をつける事が出来た。また、ケリー先生が出発前に行ってくれた留学に際したロールプレイングは非常に楽しむ事ができ、コミュニケーションもとる事が出来た。積極的に英語を話す機会にもなるので、学校のALTとの授業に取り入れてみたいと思った。

前半はアイオワ州ならではの豊かな自然を、またその自然を生かしたアクティビティを行った。それはすべてが英語で行われたので、説明が分からない部分もあったが、英語好きの私にはとても嬉しい事でありアクティビティ自体も楽しむ事が出来た。後半はホームステイと日本で準備していったプレゼンテーションの発表を行った。現地の方に準備していった英文を見てもらうと、どの項目も多くの修正が必要であった。この事で私は高校の授業で行っている英語の学習は少なくとも半分は受験に向けたもので、現地では通用しないと感じた。

そういった事も含めて現地の英語を生で感じられるよい経験となった。

今回が2度目のホームステイで1回目よりも積極的に英語を話そうという意識で2回目に臨んだ。ホームステイ先のポリーさんはとても親切で、親戚やお友達、遠くの娘、と多くの人を家に呼んでくださった。私がぎこちない英語を話しても理解しようと真剣に耳を傾けて、逆に私が理解していない様子を見せればすぐに簡単な英語に直したり、速さを落としてくれたりしてくれた。

私は1回目のホームステイよりも有意義な時間を過ごす事が出来たと確信している。すべては私を迎え入れてくれたホストファミリーのおかげだと思う。私は彼らに本当に感謝している。

そして、このプログラムの実現と成功は多くの方々のご協力があって成し遂げられた事だと感じている。今回このプログラムに関わったすべてに人々に感謝したい。

報告書

渡邊 亜未

今回、海外に行くのは2回目でしたが、1回目が幼く記憶にほとんどないので、初めてみたいなものでした。メンバーも同じ山梨の高校生とはいえ、知らない人ばかりで、本当に不安だらけでした。だけど、そんな不安もいらなくらい、本当に楽しくたくさんのお話を学ぶことができました。

1日目の移動。1日に12時間も飛行機に乗る長旅で1日が40時間くらいあるように感じるくらい座っているだけでも疲れた印象があります。2日目。鳥の種類を学んだり、洪水防止についても学んだりしました。特に印象的なのは、ハイキングとアーチェリーです。ハイキングは山を歩きました。長くていつも一番後ろを歩いていましたが、そこで先生方とお話することができたので、一番後ろも悪くないなって思いました。ナイトハイクは暗くて泣きそうだったけど、そこで見た星空は本当に素敵で、一生忘れないと思いました。アーチェリーは初めてでしたが、的に当てられたのでうれしかったです。3日目。地元の高校生との交流でした。日本の文化や、漢字などをたくさん教えられたのでよかったです。同年代ということもあり、仲良くなれた感じがします。午後からはホストファミリーのもとへ行きました。たくさん話かけてくれて嬉しかったです。その日はお兄ちゃんとその友達とショッピングモールへ行きました。私たちが買いたいやつを一生懸命見つけてくれてありがたかったです。夜はピザを食べました。英語がうまく伝わらない時もたくさんありましたが、顔の表情や手の動きなどで一生懸命伝えました。その日はずっと家族で笑ってて本当に楽しかったです。4日目。この日は1日家族といれました。お父さんと妹がアイオワで一番大きなモールに連れてってくれてたくさん見ました。みんなでうさみみをつけて写真を撮ったり

お店においてあるおもちゃで遊んだり、本当に楽しかったです。夜はいつものようにみんなで話してずっと笑っていました。5日目。事前学習で学んだことをまとめて夜ホストファミリーに発表しました。発表のとき、お母さんがずっと動画をとってくれていて、本当の娘のように扱ってくれて本当に嬉しかったです。パーティーが終わってから、買い物に連れて行ってくれました。夜遅くまでみていたのに全然嫌な顔せず、むしろ私たちが喜んでる顔を見るのが好きとってくれて嬉しかったです。おいしいアイス屋さんに行ったのもいい思い出です。帰ってからはお兄ちゃんたちとテレビを見て夜遅くまで騒ぎました。そのあと、家族みんなに買ったキーホルダーを机に置いて、手紙を書きました。6日目。ホストファミリーとの別れの時間がきました。別れるのが本当に嫌で辛くて、泣いて泣いて泣きました。そのあと飛行機にのってロサンゼルスに行きました。ロサンゼルスの夜景は格別で本当にきれいでした。7日目。日本にかえって来ました。

私がこの1週間で学んだことは、言葉は通じなくても大切な存在になれるということです。これは特にホストファミリーと過ごしたことで感じました。うまく話せなくても一緒に笑って一緒に理解しようと考えて、そんなことをしているうちに私のなかでホストファミリーは本当の家族のように感じられました。今でも連絡をとれています。こんな貴重な体験をさせてくれたすべての人に、またこのホストファミリーに出会えた運命に本当に感謝します。長いようでごく短かった1週間。こんなにも思い出の詰まっている1週間はこれからはないと思っています。ここで学んだことを将来活かしていけたら嬉しいです。そして一緒に行った仲間との絆も大切にしていきたいです。たくさんの思い出を本当にありがとうございました。出会えたこと、本当に嬉しいです。この経験は周りの誰よりもすごいことだと感じています。これから落ち込んだり辛かったりしたときはこの経験を思い出してそれをばねに頑張っていきたいです。



報告書

吉田高校 1年 小俣祥吾

(1)

私は、「人口減少」の問題について考えておりました。アイオワ州でも人口の減少によっては、広大な土地の利用先が農地になってしまう事が懸念されていることを聞き改めて深刻であることを考えました。

また、これらの事を聞くためのコミュニケーション能力は回数を重ねていくごとに聞く手順や、表現方法、単語を学びました。多少のコミュニケーション能力の向上があったと考えています。

解決策を考えるにあたって、まずアイオワ州と山梨県の違いについて知りました。曰く、アイオワ州の人口減少は自然現象の影響が大きいと考えられます。アメリカには「サマータイム」という時刻を1時間変える時期が存在します。これにより、朝はより早い時間帯に起きなくてはなりません。冬の時期に行われるこれは、より寒い時間を過ごすこととなります。また、冬は夜が明ける時間が遅い為、1時間早い起床時は、より暗い朝を迎えます。曰く、寒い場所や暗い場所を嫌うため、アイオワ州ではなく都心に住むというケースが多いらしいです。これは、移住を考える年代に多く見られる傾向だそうです。また、同じ点を考える場合、大学や、店舗数、ファッションの速さ、エンターテインメントが大きいと考えます。これらは、見ての通り若者に多く見られます。

使われていない土地や潰れてしまったお店の利用先が人口減少の解決の糸口になるのではないかと考えます。

(2)

事前学習会は、参加者同士の交流、アイオワ州への考え方や学んでいることの共有を考える場合、行っておいてよかったと感じます。しかし、一度の時間が少なく感じてはいました。また、アイオワ州へ行ってからプレゼンの数ページを完成させることは場合によっては難しいのではないかと感じました。そのため、背景や題名、書いておく内容もこのときに作成するか、課題として出しておいたほうが後になって焦って作成しなくすることがなくなると感じます。

初日から多くのイベントや説明がある今回のプログラムでした。

イベントの内容や量については個人的には面白く、たくさんあったと考えます。しかし、英語での説明時、私だけが感じたのかもしれないですが、速く、聞き取りにくかったと感じました。時間が押している為なのかもしれないですが、説明資料などがあったほうが後々読み返しも可能な為欲しかったと感じました。

ホームステイにおいて、始めに感じたことは一人でなくて良かったです。一人だった場合、話題の量や、体験の量も違うため、厳しかったらうと感じました。逆に三人の場合ホームステイ先で日本語を多用してしまう場合も考えてしまう為二人が適切であると感じました。また、行われているのかもしれませんが、ホームステイ先に日本人の大体の食事量や、「謝る」言動が多いことを伝えておくと壁が作られてしまうケースを抑えることができるのではないかと感じました。個人的な感想ですが、多くの場所へ連れて行ったり、会話を振ってくれたり、

土地の説明を詳しくしてくれたりと多くの配慮を考えてくださったホームステイ先の家族の方には感謝しています。おかげで、お店や食事の大きさの違いや考え方や感じ方の違い、違う宗教の体験、文化の違いと大切さを知りました。

これらは、本や話でしか私は知らなかったため大して深く考えることも、疑問に思うこともありませんでした。しかし今は、アメリカの良いところや日本のほうがよいと感じるところが多少ハッキリと感ずることができるようになりました。自身で体験しなくては分からないとはこのことなのだと感じました。

グローバル人材育成プログラム 報告書

山梨県立吉田高等学校 2年 堀内郁哉

(1) 留学前と留学後の私自身のことについて

社会課題への関心の変化

ホームステイでの一日、私はショッピングモールに行きました。最近では日本でも大型ショッピングモールができていますのでそれほど大きな期待はしていませんでした。しかしそこに行って驚いたのは建物の大きさだけでなく、そこにいる人の多さやさらに、食料品売り場の規模や食べ物のサイズにも驚かされました。単に大量に食べ物を食べるということかもしれませんが、アメリカ人の消費意欲の大きさというものに対してとても大きな衝撃を受けました。また、周りにあるゴミ箱の多さと大きさなども日本と比べて多く、まさに大量生産大量消費の国なのだとことを実感しました。最初にも言った通り日本にもアメリカ流の文化が流入しています。そしてそれらが多くの日本人にも受け入れられています。しかし、今回の留学をきっかけにわかったことは、日本にはアメリカとは違う日本流のライフスタイルを進めていく必要があると思います。何でもかんでも欧米異文化を取り入れ、他国に例があるからと言って日本でもそのまま取り入れても日本でも成功するとは限らない。地理や歴史、文化などさまざまなものが欧米とは異なった環境で育ってきた日本独自のライフスタイルを見つけていく必要があると考えます。

コミュニケーション力の変化

私はホームステイで一人だったので、日本語をまったく使わない時間がありました。最初は英語を聴いて日本語に直し、その答えを日本語で考え英語に訳す。というようにしていたが、時間が経つにつれてだんだんとスムーズになり、最後には日本語をあまり考えないように会話できるようになりました。また、以前の方法で話していると、どうしても単語の羅列になってしまいます。「単語が言えればいい」という人もいますが、会話をしていてわかったことは、当然なのですが、相手側は英語で言葉の意味を理解しているということです。だから日本語をそのまま単語に訳しただけでは伝わらない。英語の独特のニュアンスや伝わる文を身につける必要があると実感しました。

問題を解決する力

私が今回の留学の中において印象に残っている言葉があります。それは、ロサンゼルスで添乗員の方が話していた「アメリカは移民の国です。世界中の様々なところから様々な教育を受け、それぞれ異なった考え方を持った人が集まるのです。日本国内にいとどんなに異なった地域にいてもある程度は同じ教育、考え方が養われます。自分とは全く違うか価値観を持った相手に対して自分の意志を伝えるためには、はっきりと自分の主張を伝える必要があります。」という話です。日本は和を重んじる傾向があるという話を聞ききます。協調主義は日本において美点であります。欠点でもあります。また、協調主義が進みすぎると、だれも責任をとれない、動けない集団になってしまいます。しかし私は人と人が互いの案を出し合ってさらにいいものが作れたという経験を何度もしています。問題を解決し、さらによくしていくためには、協調の中で自分の“個性”を出していく環境や考え方、経験を積んでいく必要があると思いました。

(2) 体験を通して感じたことについて

事前学習会で集まったメンバー4人は私が今まで関わったことがない学校、人でした。グループだけじゃなく、今回のプログラムの20人や先生、ホストファミリー、それまでに関わった人など、いままで知らなかった多くの人と知り合うことができたことが私にとって大きな出来事でした。“縁は異なるもの味なもの”といいますが今回のプログラムに参加しなければ出会えなかった人たちがいます。彼らと一緒にアメリカに行けたことやお互いの考え、価値観に接することができたことがとても貴重な体験でした。そういう人達とのつながりをこれからも大切にしていきたいと思っています。



(1)アイオワ州は自然が多く、空気もきれいで、自分の住んでいる富士吉田市に似ていてとても過ごしやすい街だと感じました。しかし、自分たちが宿泊した spring brook education center の周りは畑や農場や木々に囲まれており、周りに店や公共施設がなく、都市部へ行くのにもとても時間がかかり、住むのには少し不便だと感じました。

田舎の若者が都市部へ流出してしまうのは、都市部からの距離が離れすぎていることと周りに働ける場所もなければ、買い物をできる場所もないということが原因だと思いました。

また、自分たちの班は問題の解決策として「農業をやりたい人たちを招待する」「山梨とアイオワの新しいブランドの穀物を作る」などをあげました。しかし、実際にアイオワに行ってみて、農業をやりたいと思っても周りに農地以外何もなく、ブランドを作って宣伝したいと思っても宣伝できる場所が無いことがわかりました。なので、これらの解決策を実行することはとても困難だと感じました。

自分はアメリカの空港に着いたとき、周りからは英語しか聞こえずとても不安でした。

現地の人との喋りがとても速くて全然聞き取れず、どう反応してよいかわからず、コミュニケーションをとるのにとても苦労しました。しかし、日に日にしっかりとコミュニケーションをとることができるようになってきました。これは、ホストファミリーと長い間、交流できたからだと思っています。初めてのことで、とても緊張している自分たちに、優しく家族のように接してくれて自分たちにも理解できるように喋ってくれたりしました。なので、自分もしっかりと自分の意志を伝えることができたし、間違いを気にせずに家族としゃべることができました。以前は人とコミュニケーションをとるのはあまり得意ではなかったけど、一緒に生活した仲間たちや先生方、ホストファミリーやその他の方々との交流で自分のコミュニケーション力に自信がつかえました。

(2)事前学習会では、他校の生徒や学年の違う生徒ばかりで、緊張や不安がたくさんありました。しかし、共にアイオワのことについて調べたり、話し合ったりすることで、自然とみんなと話ができるようになっていました。事前学習会なしで、アイオワに行っていたらと思うととても恐いです。アイオワの社会課題についてのポスター制作はとても難しかったけど、やりがいがありました。これからも、アイオワのことについてたくさん調べたいです。

留学中はアイオワで色々なことを体験することができました。spring brook education center では、アイオワ州の自然についてたくさん知ることができました。また、現地の学生との交流でアメリカの人々の積極性やアクティブさを実感でき、シニアの施設の人の話を聞くことで、アイオワの現状を知る

ことができました。その他、アイオワ姉妹州委員会の人たちによる街の案内で色々な場所に行きました。どこも魅力的な場所ばかりでした。

また、最終日には、ロサンゼルスに行きました。科学館はエンデバーやその他色々なものを見ることができました。また、ハリウッドでは、テレビでしか見たことがなかった山の上の看板を見ることができたのがとてもうれしかったです。危険もいっぱいあったけどそれ以上に周りがすごく盛り上がっていてすごくいい街だと思いました。天文台からのロサンゼルスの夜景はすごく感動しました。

ホームステイでは、自分が家族の一員かのように生活できました。ホームステイ中はショッピングモールやダムなど、たくさんの場所に連れてってもらいました。ショッピングモールは、山梨にはないくらいとても規模が大きくて驚きました。また、公園やダムでは普段山梨では見ることのできない動物や設備を見ることができました。書道やけん玉など日本古来の伝統も一緒に体験することができました。逆に、アメリカでしか体験することのない日曜礼拝も体験することができました。

ホストファミリーはいつも自分に優しくしてくれ、自分のことを気遣ってくれたりしました。たった3日間しか過ごしていないのに、まるで、第二の家族になったような感じでした。ホストファミリーには本当に感謝してもらえません。

このプログラム中は本当にたくさんの人にお世話になりました。いつか自分もたくさんの人役に立つ人になりたいです。機会があればぜひまたアイオワに行きたいです。



アメリカ留学体験記

吉田高校 1年 天野玲亜

実際の留学の前に三回にわたって事前学習会が行われました。

第一回の学習会では、まず All English での自己紹介をしました。一緒に行く仲間たちの前で話す初めての瞬間だったので、とにかく不安と緊張でいっぱいでした。さらに、みんなは面白いことを言って笑いをとっていたので死にました。私は笑いをとれなかったけれど無事に自己紹介が終わり、ホッとしました。その後、グループに分かれて課題設定を行いました。この課題設定は各自が調べ、考えてきた“アイオワ州と山梨県の共通する問題”についてウエビングマップやロジックツリーといった方法を使って意見を出し合うことから始まりました。はじめは同じグループの先輩たちの意見や考えを聞くばかりだったけど先輩が「玲亜はどう思う？」などと聞いてくれたり、話し合いをリードしてってくれたりしたので第一回目から良いスタートがきれたと思います。私たちのグループ、五班の課題は“人口減少に歯止めを 農家誘致で進めよう”となりました。

第二回の学習会では、おもに第一回の学習会で決めた課題に沿ってその課題とした問題の現在の状況やそれに対して今、高校生の私たちに何ができるかを考え日本語のポスターにしました。

第三回、最後の学習会ではその日本語で作成したポスターをアイオワ州に住む同世代の人たちと discussion ができるように英語のポスターにしました。

いよいよ留学当日！三月十日午前九時四十分アメリカ、アイオワ州に向けて出発するときがやってきました。正直、この時もまだほとんどの人と話したことがなかったので楽しみよりも不安と緊張のほうが私の心を占めていたと思います。しかし、亜未先輩が話しかけてくれて少し気持ちも楽になり、いっぱい学んでいっぱい楽しんでこの留学を満喫してこようと意気込みました。

アメリカについてははじめの二日間は Springbrook に宿泊しました。Springbrook では自然環境に関する実地調査という名目で鳥の観察やハイキング、ナイトハイクなどを行いました。ナイトハイクとは森に囲まれた山道を三人一組で懐中電灯のみで歩くというものでした。昼間のハイキングで何かに食われて骨が剥き出しになって死んでいる鹿を見たので私も食べられるかもしれないぞと思い怖さ倍増でした。さらに動物の音を聞くために静かに歩こうと言われましたが、怖さで普通に叫んでいました。他にもアーチェリーやキャンプファイヤーを行いました。キャンプファイヤーでは木の枝にマシュマロをぶっさして焼いて食べました。すごく美味しかったです。

三泊目からは待ちに待ったホームステイです。家に向いながらデモインの街のいろいろなものを説明してもらいました。そこからはほとんどが英語での会話になり一人でワクワクしていました。ホストファミリーと話すと自分の英語のできなさが気持ちいいほどわかります。さらに夕飯の支度を手伝ったりして生活面でも自分は親に頼ってばかりだなと気づくことができました。勉強面でなく生活面やそれ以外のことも自分を思い返すことができ、ホームステイってなんて素敵でありがたい体験なのだろうと心の底から思いました。四日目はホームファミリーと過ごす日。私のホームマザーは日本人で日本語を教えている先生で四日目

はその生徒にいろいろ連れていってもらいました。生徒たちは日本語を習っているので「俺はベンだ」など日本語で名前を覚えてくれてすごく面白くてすぐに打ち解けることができました。最高の出会いの瞬間でした。本当に彼らは日本語が上手くて同じ外国語を勉強するもの同士、刺激になりモチベーションが上がりました。夜は数野先生、渡辺先生も来てみんなで生春巻パーティーをしました。いろいろなものを詰めて自分で巻いて食べてとても美味しかったです。

五日目は数回の事前学習会で準備してきたポスターの発表会です。ホストファミリーも見に来てお別れ会も兼ねた形でやりました。人の多さや失敗しないかなどいろいろと緊張したけれど終わったあとにホストファザーが Your group is best! と言ってくれてとても happy な気持ちになりました。最後にはみんなでカントリーロードを歌ってすごく感動的な会になりました。

この留学を通してとても多くのことを学べ、発見でき、最高の仲間と出会えることができました。出発の時に意気込んだよう、いやそれよりかはるか上の留学になりました。この経験は一生ものです。この留学で関わった全ての方々に感謝します。最高の留学を体験させてくれてありがとうございました。まだまだ書きたいことは沢山ありますがこのへんで。good bye!

この留学を通して

米山隆人

私はこの留学を通してたくさんのことを学びました。全部をここに書いてしまうと本が一冊できてしまう程なので、その中からいくつか述べたいと思います。

まず、日本と大きな違いがあると思ったことは「食」に対する考え方です。日本人は概して「残さず食べる」ことを大事にしていますが、アメリカでは「食べきれなかったら遠慮なく捨てる」ことが一般的だと感じました。ホームステイ2日目にレストランに行った時のことです。ホストファザーが「たくさん頼んでシェアしよう。」と言ったので、各自、1、2品頼みました。最初は余裕で食べ切れると思っていたのですが、そうは問屋が卸さず、さすがは大量生産大量消費の代名詞アメリカ合衆国、量が日本の3~4倍は余裕であり、全員で力を合わせてもそれらを食べきることはできませんでした。その後その料理はたくさん残ったまま店員さんによって厨房へ下げられて行きました。また、日本でも有名なファーストフード店やドリンク店の料理も、日本より味付けが濃く慣れるのに時間がかかりました。

次にコミュニケーションについてです。渡米前の学習会で日本旅行の担当の方から、「はっきりと意思を述べるように。Japanese Smile は好ましくない」と教えてもらったので、鮮明で文章構造的にも完璧な言葉を喋らなくてはならないと思い、英語力に自信のない私はとても緊張しました。しかし実際はそうではありませんでした。友達がのどが渴いたときに「Drink this water ok?」と尋ねました。この文章は構造的に誤っていますが、難なく相手に通じ水を飲むことができました。コミュニケーションの方法は様々あるけれども、最終的には言いたいことが伝われば何の問題もないと思いました。また、ジェスチャーを活用することによって、たとえ言葉で通じなくても意思の疎通がはかれると思いました。

「人生は何か困難があったほうがより良いものになる。たくさん悩んで、これからも楽しい人生を送ってください。」これは私のホストマザーが空港で別れるときに私に諭した言葉です。とても感動しました。初めて人と別れるときに涙が出ました。「必ず戻ってくる。」それしか言えませんでした。「時は金なり」という言葉をよく耳にしますが、私はそうは思いません。「時は金なんかよりはるかに重要だ」

All the moments are my wonderful experiences.

山梨英和高校 2年 渡邊美月

(1) 元々、社会問題についてあまり関心がなかったため、アイオワ州の問題についてしっかり考えることが出来るのかとても不安でした。アイオワ州に着き、Springbrook Education Center でのアクティビティを体験する中で、コーチングスタッフの皆さんがアイオワ州の社会問題について説明して下さった内容から、問題となっているものの原因と解決策を理解し、今まで自分では考えつかないようなアイデアを知ることができました。今回、山梨だけではなく、アイオワ州の問題にも触れ、自分とは違った視点からの考えなどを知ることができて、今まで以上に社会問題に対する関心が高まったと思います。

私は、コミュニケーションがとても苦手で、第2外来語である英語でのコミュニケーションはとても難しいものでしたが今回の留学では、わからないことは自分から聞きに行かなければいつまでたっても解決しないということを手学したので、積極的に自分からコミュニケーションをとることができたと思います。自分から行動することによって、相手との距離を縮めることができ、自分の力も伸

ばすことができるのではないか、と考えました。留学中に、前の自分の考え方とは違う考え方ができるようになり、それと同時にコミュニケーション能力も上げることができたと思います。

今回、アイオワ州で問題に対する意見や解決策を問われる場面がありました。さまざまなことにおいて問題を解決するために必要なことは、いろいろな意見を取り入れることだと思います。みんなでいろいろなアイデアをだして、考える機会があったので、この留学プログラムでは、他人の意見と自分の意見を組み合わせ、問題を解決するための意見を出す力が確実についたと思いました。

(2) 事前学習会で、グループメンバーの考えを聞いていると、自分の意見とはまた違った視線から見た考え方がたくさん出てきて、こんな考え方もあるのだな、など、新たな発見をすることができました。私が学んだことは、さまざまな視点からの考え方を知ることが大切、ということです。ただ、自分が思ったことをみんなに発信するだけでなく、自分の意見もしっかりと主張しつつ、周りの意見もしっかり聞き、すべての情報をまとめることによって、個々の意見を上回った新しいアイデアを生み出すことができる、と思いました。

Springbrook Education Center では、日本で普通に生活していたらできないようなことを見たり、体験することができました。野鳥に協力してもらう生態系調査や、疑似餌作り、周辺の歴史について知ることを兼ねたハイキングや動物たちの行動をブラックライトや聴覚を使って調べるナイトハイクなど、とても楽しいけれど、しっかりと学ぶことができるアクティビティをたくさんしました。キャンプファイアーをしながら、夜行性の動物の声を聞くというアクティビティはなぜか、なくなっていたので少し残念でしたが、みんなで見晴らしの良い場所に行き星を見たり、スモア作って食べたりするなどのアクティビティができたのでとても充実した時間が過ごせたと思います。

今回のホームステイは、私の経験の中では1番英語を使ってコミュニケーションをとることができたホームステイでした。夕食の手伝いをしたり、一緒にお買い物に行ったり、将来についての相談に乗ってもらったり、3日間という日数はとても中途半端で、コミュニケーションをとるのには短すぎると思いました。しかし、ほとんどの会話を英語でし、いろいろな話をすることができて、とても充実していました。後悔のないホームステイにすることができてよかったと思います。



報告書

英和高等学校 山口 真有美

今回のグローバル人材育成プログラムで私は様々なことを体験し肌で感じ学ぶことができました。今回初めて外国に行く経験をした私にとって、アメリカで見たものは全てが新鮮で興味深いものでした。外国を訪れたことで、今まで気づかなかった日本の良さや、日本にはない外国の良さを知ることができました。

今回のプログラムの目的は、参加者それぞれが山梨とアイオワ州に共通する社会課題に着目しそれを解決するために私たちができることについての研究でした。私の班は人口減少に着目し、さらにそこから農家誘致という案を導き出しました。1日目にスプリングブルックでの農地に起きている問題やそのために何かなされるべきかということについての学習が、今回私たちが設定した課題と深く関係があることに気がつきました。農地を破壊させないために自然の水の流れについて考慮しなければならないこと、また、ただダムを作るだけでなくダムをどのように作るべきか、を知ることができました。私たちが農地を誘致するべきならば当然農地は良質なものでなければなりません。今回のプログラムで学んだことの中で一番私たちの研究にとって重要だと感じました。

今回の旅行で、問題を解決する力、コミュニケーションの力をつけることができたのではないかと思います。私は空港でいろいろな手続きをしなければいけなかったり、色々意思表示をしなければならぬことが人よりも多かったので、その中で自分でそれらを切り抜ける力や、今まで以上に、物事をしっかり英語で伝える力を身につけられました。私が痛感したことは、どのようなこともはっきり発言することが大事だということでした。アメリカでは言わなければ伝わらないということを知ったことはありましたが、今回それを実際体験し確認できたので良かったです。

今回のプログラムの中で一番記憶に残っているのは、ホームステイをしたことです。ホームステイがどのようなものか全然見当もつかなかった私にとって、直前は不安と期待がありましたが、ホストファミリーの方々は思っていた以上に優しく楽しい方々だったので、最後の日は、三日間は短くてもう少し長くここにいられないかと寂しくなりました。私たちにとってのホームステイはとっても良い思い出です。

今回、私は本当に沢山のことを得て、沢山のいい思い出や優しい人々に会うことができました。アメリカにいく前から持っていた国際的に活躍できる人になりたいという夢がもっと大きくなった気がします。今回の経験を糧にこれからも自分の夢に向かって努力をしていきたいと思えます。

「留学報告書」

甲府東高校 2年 廣瀬 徳之

「きっとこの世界の共通言語は英語じゃなくて笑顔だと思う。」という、高橋優さんの福笑いという歌があります。

1週間という短い時間でしたが、このことを、大きく感じることができました。

中学三年以来の海外研修で、言葉に表せないほどの楽しみと同時に、不安もありました。実際現地に行くと、まず空港で聞こえてきた言葉は、good!! nice! thanks!といった、簡単な単語ですが、温かい言葉でした。英語環境になれてない中で、そういった言葉が最初に聞こえてくるのは、当たり前と思うかもしれませんが、僕にとってはもっと大切なことに思われました。よく、温かい言葉がけをなさい、と言われます。きっと多くの人が、幼い時に、また学校などで、言われたことがあると思います。「温かい言葉をかける。そうすると周りの人も明るい気持ちになるんだよ。」両親から僕はそのように言われました。

18年間という年月を過ごしてきて、こういったことは、当たり前のこと、として頭のどこかにはありました。しかし実際は、日常生活でそういった言葉はなかなか使えてないように思えます。普段思っている、ありがとうという言葉。なかなか照れくさくて言えないかもしれませんが、こういった言葉を言うことが、大切なんだ、ということ、異国の地で改めて感じさせられました。

また僕は、今回の研修で何か自分の進路に繋がることを見つけたいと思って臨みました。そんな中で、最終日のロサンゼルスで、日本人の旅行関係者の方と会うことができました。そこで、海外で生活することは、実際にどういったことなのか、アメリカはどのような国なのか、バス内での短い時間でしたがお話を聞くことができました。その人の姿を見て、僕も将来直接外国人と関わる仕事をしたい、と刺激を受けました。

ホームステイでは、トランポリンのできる大きな施設に行き、そこでトランポリンドッジボールをしました。小さな子供をはじめ、僕たちのような高校生のような人や、大人まで、たくさんの方が、トランポリンで楽しんでいました。特にドッジボールは、とても印象に残りました。ボールが6つあり、ラインを挟んで、時間制限を決めてボールを当て合う。ボールを取って投げるのできる子や、できない子がいます。そこで僕は、日本人との大きな違いを感じました。きっと日本人は、まず知らない人と、ドッジボールをする、ということがお国柄ありえないと言われるかもしれません。もし行ったとしても、ボールを投げる人を決めることに苦戦するだろうと、僕は思いました。日本人は消極的だからです。しかし、アメリカの子供たちは、みんな自分でボールを奪い、誰彼かまわなく、投げていく。その姿を見て、さすが外国の子だ！とすごく思いました。こういう場面で、日本との違いを感じる事が出来たのは、すごく良かったです。よく学校の先生に、海外の子供たちは、もっと積極的なものになーと言われても、なかなかイメージできていなかったからです。そんな風に1時間以上、猛烈に汗をかき楽しむことが出来ました！

そこで僕は、人種は違えども、スポーツは心を通わせられるものなんだと、強く感じました。連れていってくれたホームステイの方に改めて感謝したいです。

今回の研修を終えて、またプログラムを進めていく上で、県の方をはじめ、両親や、またホームステイの方にたくさん支えていただきました。

特にホームステイ先では、とてもよくしてもらい、僕の文法バラバラごっちゃごっちゃの英文を理解しようと、すごく熱心に聞いてくれました。僕も今後、ホームステイを受け入れる、ということをしたと思いました。

いつか、アイオワにもう一度行って、新しい目で、見たいと思いました。

そして今回学んだ多くのことを、友達や家族に沢山話して自分の知識をさらに深めていきたいと思います。

もっともっと、英語を勉強して、たくさんの外国人と会話をしていきたいという、新しい目標ができました。